

水の風景

Water Landscape Design

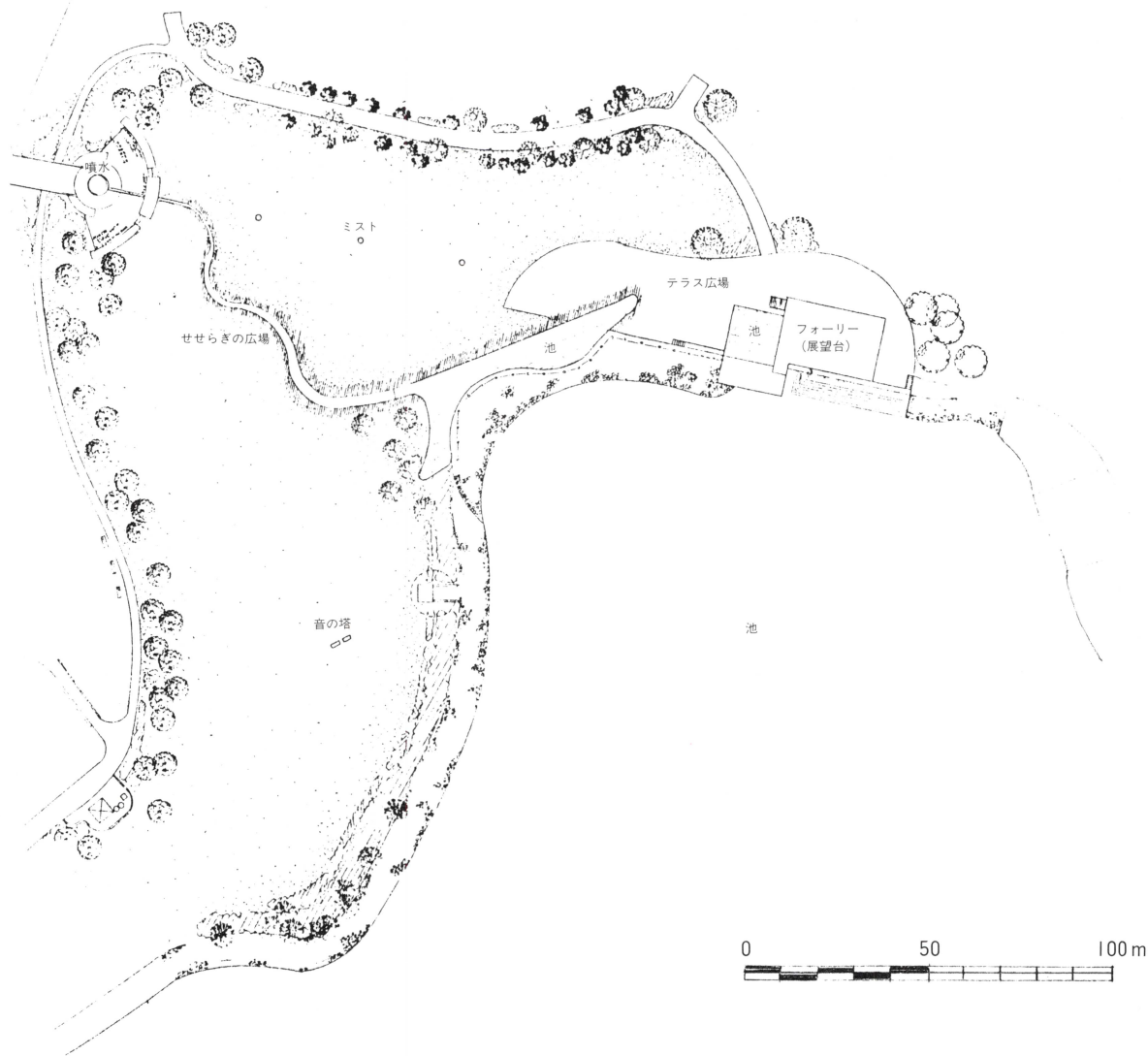
岡田憲久

Norihisa Okada

落合公園フォーリー広場

所在地 愛知県春日井市

制作 1993年



全体計画平面図

春日井市の総合公園として年々整備の進む落合公園に、愛知ふるさとづくり事業としてフォーリー（展望台）が建設された。その建設に合わせ、駐車場からフォーリーへのアプローチとして水辺空間の演出を行った。計画面積は1.7haもありながら全体は大きな芝生の起伏とその中を流れる一本の水路だけの単純な構成とした。又、池を一体風景として取り入れるため規存の護岸を多少張り出し、風景を区切りながらつなげる演出を行った。細部の構成は、駐車場からこのゾーンへの進入口として扇形の小広場を設けその中心から単純な一本の水の柱を上げた。その水は軸線から右へと右廻しながらフォーリーへと人々を導く。軸線の暗示として20mピッチにミスト（霧発生装置）を仕込んだ。展望台の足元の約1000㎡の舗装は中国の磚せんという素材を使用し瓢箪形のテラスとした。せせらぎは約100m続き池に注ぐ。この今回作られた池の水面と元の池が、人の導線の変化により一体化したり、造形的形が現われたりする。又、この池は季節により農業用水の流入があり水位は2m近く変化する。そのため護岸の形状を自然石貼りの水の変化に対応するものとした。



エントランス広場



流れの景



フォーリーより全景を望む



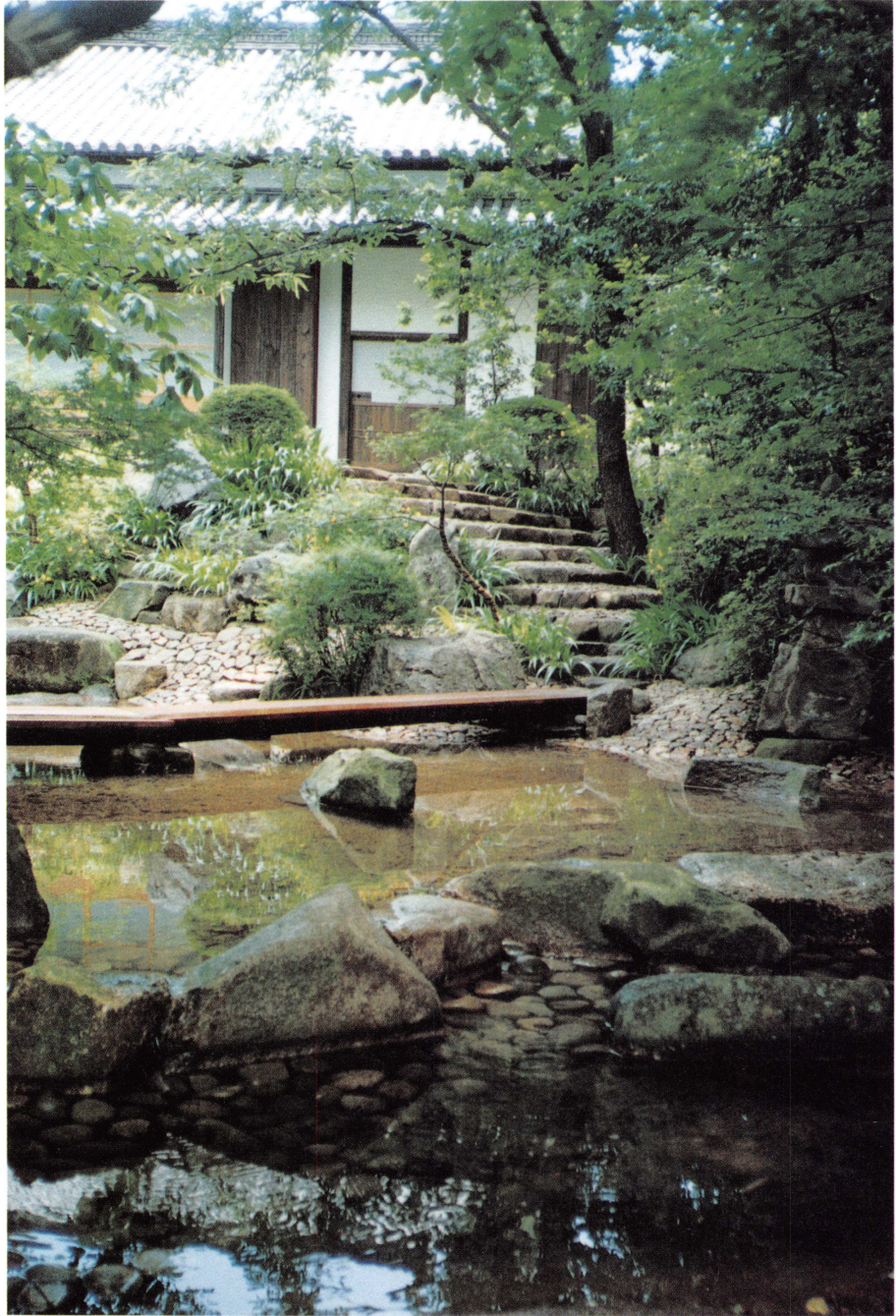
工法庵・洞雲亭庭園

所在地 愛知県春日井市

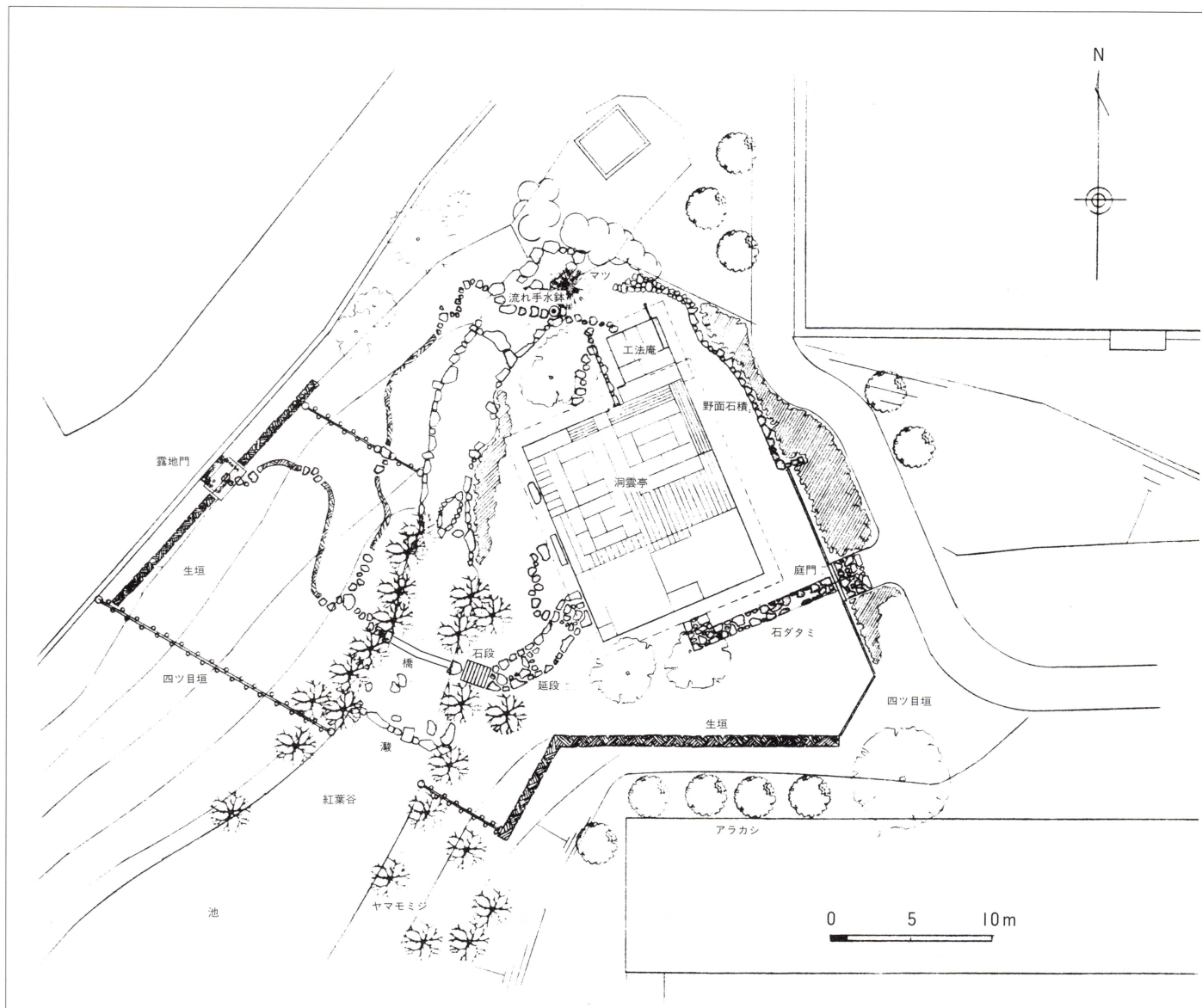
制作 1991年



洞雲亭 玄関前



沢渡りと洞雲亭



全体計画平面図

中部大学構内に、古建築修復の権威伊藤平左衛門教授の指導のもと、利久囲い茶室の復元と小豆島観音寺庫裡移築修復が、建築学科の学生の研究ゼミとして行われた。それに伴う周辺の修景は、既存の森と流れと池と建物を、いかに一体的景観としてまとめ、建物のみならず、その周辺造園を含めた空間が一つの大学施設として日常利用及び学内研修の場としてふさわしいものとなることを目的とした。

豊かな緑に包まれた敷地の造園的演出は、どこからこの溪流を渡り、茶室へどうアプローチするかという動線の決定とその道の景の演出につきた。動線に従って変化する視線の変化が既存の景観を庭的景として切り取る。

又、建築敷地が溪流に近接し、その高低差が2 mあり溪流護岸の改修が必要となった。書院西面の平坦地部分の少しでも多くの確保のための土留め石が、書院からの庭園石組みとなるよう配慮することにより、ゆるやかな斜面地の庭が、書院西に展開し、既存の2次林と一体化した風景として取られるようになる。

もう一つ大きな景の演出として、流れが池に注ぐ手前に堰を1ヶ所設け広いたまりの部分を造り、あたかも池が建物に引き寄せられたかのような景の変化を試みた。

茶室廻りは既存のエノキとカキの大木が茂り、最小限の意匠とした。待合腰掛け前には山崎の里妙喜庵の絵図に描かれた袖すり松を偲び、小松を配し、流れ脇には、もち白を置き手洗いとした。

植栽は、すでにある自然景観に対しテーマ性を持たせるため、溪流の西脇にモミジを配しこの谷をモミジ谷とした。その他の植栽は、山の景に合う、山野草、茶花を配した。

